

経営比較分析表（令和4年度決算）

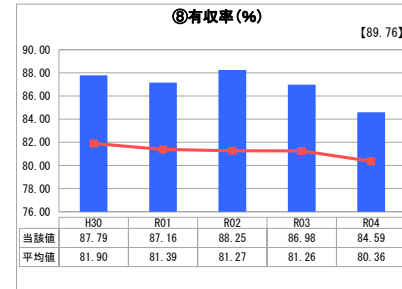
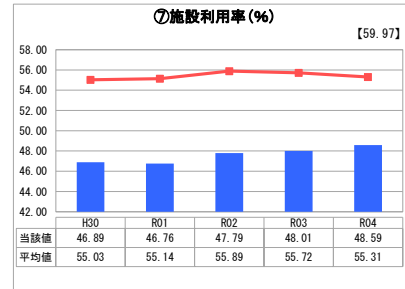
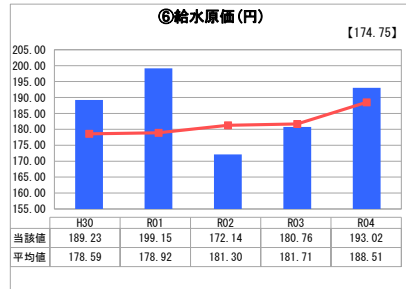
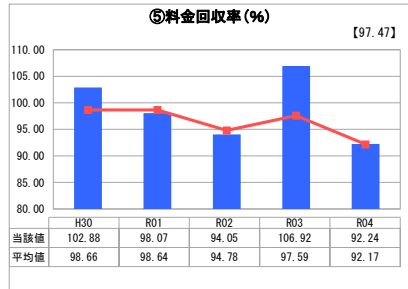
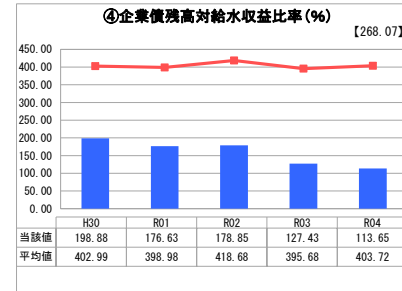
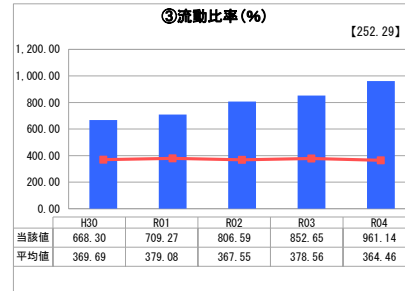
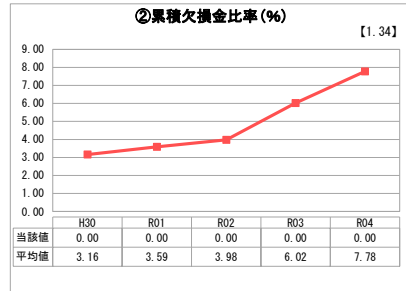
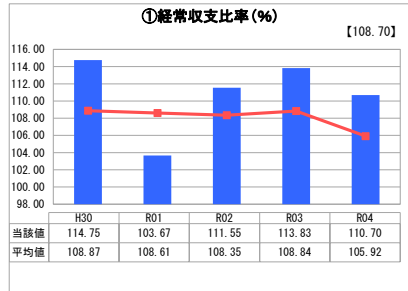
栃木県 高根沢町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家賃料金(円)	
-	93.15	99.04	3,575	

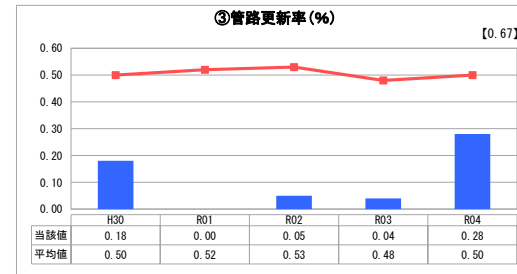
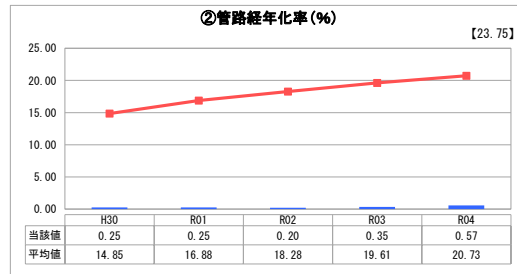
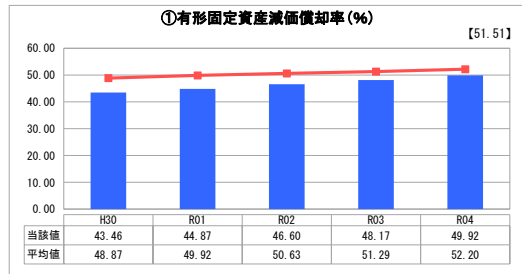
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
29,074	70.87	410.24
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
28,686	70.87	404.77

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性を判断する指標である、「①経常収支比率」は100%を超えており、短期的な債務に対する支払い能力を表す「③流動比率」は、平均値を大幅に上回り良好な値を示しているといえます。また、「④企業債残高対事業規模比率」については、当事業は新たな借入がなく、企業債の返済段階であることから、企業債残高の減少に伴い年々減少していく見込みです。「⑤料金回収率」については、給水原価の上昇及び令和4年度は基本料金の減免措置を実施し供給単価が低下したことから、100%を下回っている状況となっています。「⑥給水原価」は電気代高騰や施設修繕による費用の増加により前年度及び類似団体平均値と比較し高い水準となっています。また、施設の利用状況や適性規模を判断する指標である「⑦施設利用率」は、48.59%と低い水準であり、「⑧有収率」も類似団体と比較し高い数値ではありませんが低下傾向となっています。今後、健全経営を維持していくためには、施設更新時に適切な規模に見直し、施設利用率を改善するとともに、有収率の低下を防ぎ、効率性を高める必要があります。

2. 老朽化の状況について

老朽化した石綿セメント管（老朽化したときの強度が著しく低くなるため、地震や水圧などの衝撃により破損や割れを生じる場合がある管）を耐震性のある水道管へ更新する工事を計画的に行ってきたこともあり、耐用年数を経過した管路は少ない状況ですが、漏水も度々発生しており有収率も低下傾向であることから、今後において漏水調査の実施を検討しています。

全体総括

経営比較分析表の結果を見ると、当町の経営状況は良好であるといえますが、今後は、少子高齢化による人口減少、節水意識の高揚等により、水道料金収入が減少していくことが見込まれます。その一方で、水道施設・管路の防災対策、老朽化による更新事業等により設備投資の費用増加が見込まれます。今後、令和2年度に策定した水道ビジョンに基づき、計画的に水道施設・管路を更新し、安全・強靱で持続可能な水道事業を目指します。